◎議事概要◎

(1) むきばんだ史跡公園視察研修

「史跡青谷上寺地遺跡」の整備が平成３１年度から開始される予定であることから、遺跡整備をどう地域活性化につなげていくかを研修するため、「むきばんだ史跡公園（大山町・米子市)」を視察しました。

史跡公園の担当者より、遺跡の活用事業では、「遺跡で学ぶ活用」と「遺跡を楽しむ活用」に取り組み、体験ボランティアやガイドの会など地域ボランティアが重要な役割を果たしていること、一般の方以外にも学校やＰＴＡ活動にも利用いただき、年間約36,000人集客していることなどをお聞きしました。それを受けて、今後青谷地域が取り組んでいかねばならない地域住民の参画を促進する方法など、熱心に質疑を交わしました。

その後、竪穴住居などを復元した弥生時代の集落跡である丘陵におもむき、公園として整備されている様子を見学しました。

(2) 認知症を支える地域づくりを青谷町全域で

○鳥取西地域包括支援センターより説明

認知症を支える地域づくりのためには、次の４つの柱の設定、「①認知症への正しい理解」、「②認知症の早期発見・早期対応」「③認知症の方を見守る地域づくり」、「④認知症窓口の充実や関係機関の連携」が必要です。そして、これらを推進するための施策・事業として、青谷地域の現状を踏まえた目標や計画を決め、認知症サポーター養成講座や介護予防出前講座、もの忘れ相談プログラムの取り組み、ご近所見守り応援団協力店登録の推進、青谷町医療介護地域連携会や認知症オレンジカフェの開催などを行うことを提案します。

【委員】支所は市民福祉課が窓口だが、社協（市社会福祉協議会）との関係はどうなのか。

【支援センター】社協も地域福祉の団体なので、当然関わっています。この提案を社協などとも連携して取り組みたいと思います。

【委員】集落には老人クラブがあり、社協との関わりが大きい。老人クラブにも関わってもらう。制度をまず知ってもらうということ。

【委員】認知症については、一般の人は理解が難しい。まずは問題を明確化し、関係者が問題を理解し、コミュニケーションを取り、現状を分析し、その結果政策立案をし、実施し評価する。それがプロセス。これからは、市民を巻き込んだ

産学官民の事業展開が必要。
【支援センター】こうした提案を地域で活かしていきたいと思います。
【委員】認知症サポーター養成講座を別の会議の議題に入る前などに行ってはどうか。
【支援センター】そのような要望があれば、実施します。これまでは、依頼があればするという消極的なものでしたが、今後は、こちらからも進んで講座に取り組みます。
【委員】まず、理解をするところからスタートしないと対処の仕方もない、産学官民すべてをターゲットにして、啓発活動を徹底することが必要だ。行政や事業所の取り組みはどうなるのか。
【事務局】西地域包括支援センターは、市役所の一機関で、西部ブロックの専門部署です。支所の窓口は、市民福祉課です。この提案は、市（行政）からの提案です。事業所も、認知症の方の見守りや声かけ等で協力いただけるところは登録し、取り組みを推進していただくことを考えています。
【委員】認知症の〇〇さんが歩いていると思っても、対応の仕方がわからない。認知症について学びたいと思っても、だれがどのようにその一歩を踏み出すかが課題である。
【委員】みんなで（認知症のことを）共有しているという雰囲気は、以前に比べてある。
【委員】「認知症サポーター養成講座」という言葉が堅苦しい。
【委員】認知症への先入観の払しょくを啓発活動によって行っていくこと。
【会長】この地域振興会議で、サポーター養成講座を短時間でできるか。
【支援センター】できるように調整します。